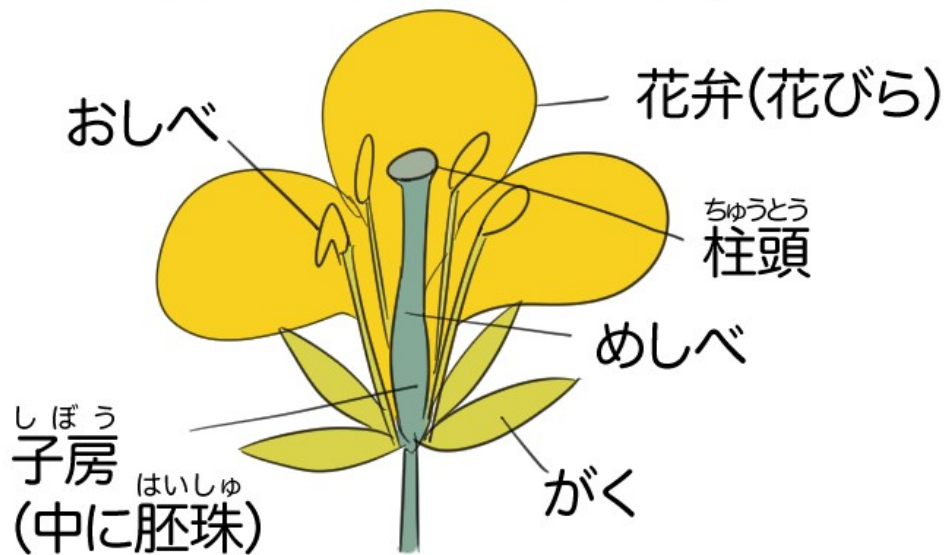


「花のつくり（種子植物の特徴）」 要点と期末テスト対策ポイントまとめ

花のつくりをイラストで見てみよう

花の形はどうなっているのかな？花を分解して、「花のつくり」を見てみるよ。

花のつくり(アブラナ)



がく

まず最初に目に入るのが「がく」だね。

これは花の外側をおおっていて、花がまだつぼみの時に中を守る大切な役割をしているよ。

色はふつうは緑色で、葉っぱのような形をしていることが多いんだ。



花弁

次に見えてくるのが「花弁（かべん）」。つまり、「花びら」のことだね。
これが花のいちばん目立つ部分で、色とりどりできれいな形をしているよね。
花弁は、虫たちを引きよせて受粉を手伝ってもらうための看板のようなものだよ。

おしべ

中心部に近づくと、「おしべ」が見えてくるね。
おしべは花粉を作る工場のようなもので、花粉が作られる先端の部分が「やく」と呼ばれるよ。

めしべ

最後に残った部分が「めしべ」だよ。
めしべは、花粉が運んできた精子を受け入れ、新しい種子を作る部屋のようなもの。
その部屋の入り口が「柱頭（ちゅうとう）」で、中には「子房（しぼう）」があり、「胚珠（はいしゅ）」から新しい種子ができるんだ。

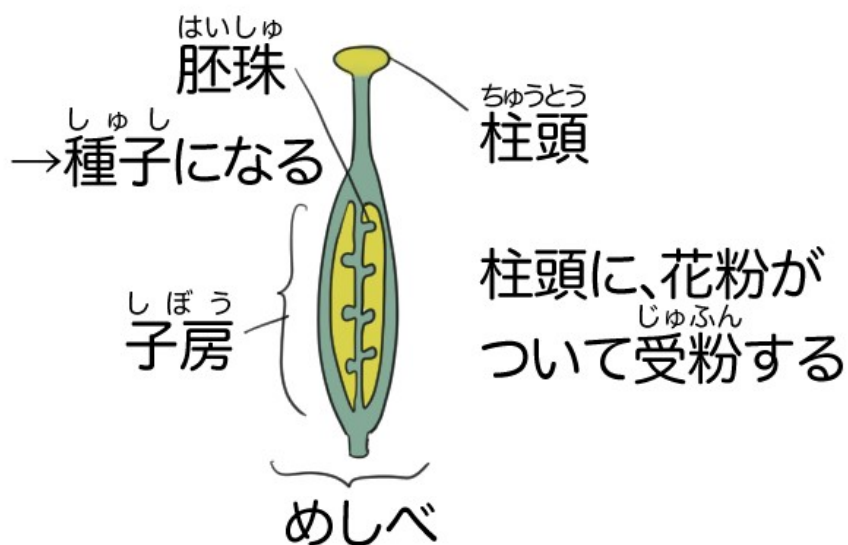
花は、外側から「がく」・「花弁」・「おしべ」・「めしべ」の順番になってできているんだね。

それでは、「めしべ」と「おしべ」のつくりをもう少しくわしく見てみよう。



めしべのつくり

めしべのふくらんだ部分の中はどうなっているのかな？
めしべのパーツを、ひとつひとつくわしく紹介するよ。



柱頭

柱頭（ちゅうとう）は、めしべの一番上にある部分で、ちょっとふっくらとした形をしているよ。

柱頭は、風や虫によってはこぼれてきた花粉を受け取る役割をもっているよ。

柱頭は、ビルの屋上にあるヘリポートのようなイメージだね。

子房

子房（しぼう）は、めしべのもとにあるふくらんだ部分で、子房の中には、種子（タネ）になる胚珠が入っているよ。

柱頭に花粉がつくと、「受粉」が起こるんだ。

受粉が起こると、子房は成長して果実になるよ。

果実になったものが、みんながスーパーなどで見かける「フルーツ」なんだね。

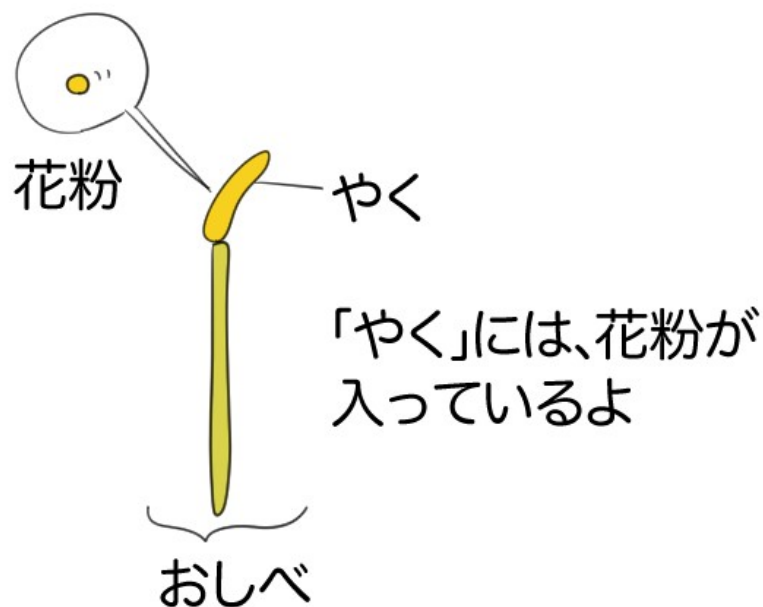


種子しゅし（胚珠（はいしゅ））

種子、または胚珠は、花の新しい命のもと。「タネ」と言ったらピンとくるよね。子房の中には、この種子がぎっしりと詰まっているよ。

おしべのつくり

おしべの先端のふくらんだ部分はどうなっているのかな？
今度は、おしべのパーツについてくわしく紹介するよ。



やく

やく（薬）は、おしべの先端のふくらんだ部分。
ここに花粉が入っているんだよ。

花粉（かふん）

花粉は、植物の種子を作るための精子が詰まった小さな粒のこと。
これが風や昆虫に乗って、ほかの花のめしべに運ばれて、めしべの柱頭につくと「受粉」が起こるよ。



種子植物と受粉

種子植物とは

種子植物というのは、「種子（タネ）を作る植物」のこと。
木や草花のほとんどが種子植物だよ。

受粉とは

花が種子を作るには、「受粉」が必要なんだ。
受粉とは、おしべの花粉が風や昆虫などで運ばれて、めしべの柱頭にくっつくこと。
受粉が起こると、めしべの子房の中にある胚珠が成長して種子になるよ。
そして、子房も成長して、果実（フルーツ）になるんだね。

まとめ

※赤いキーワードは必ず覚えよう！

- ・花は、外側から「がく」・「花弁」・「おしべ」・「めしべ」の順番になってできている
- ・柱頭は、めしべの一番上の部分で、花粉を受け取る場所。
- ・子房は、めしべのもとのふくらんだ部分で、中に種子になる胚珠が入っている。
- ・おしべの先端の「やく」には花粉が入っている。
- ・めしべの柱頭に花粉がつくことを受粉という。
- ・受粉が起こると、胚珠が成長して種子になる。
- ・受粉が起こると、子房が成長して果実になる。
- ・種子をつくる植物のことを「種子植物」という。



いろいろな花のつくり

花にはいろいろな種類があるけれど、花のつくりは同じで、外側から中心に向かって「がく」・「花弁」・「おしべ」・「めしべ」の順番になっているね。

つくりは同じだけれど、花は種類によって「花のかたち」や「花やがく・おしべの数」などは違うんだ。

たとえば、アブラナ・アサガオ・タンポポを例にして、それぞれどんな違いがあるのか見ていこう。

アブラナの花のつくり

アブラナの花は、4枚の花弁と6本のおしべ、1本のめしべからできているよ。

アサガオの花のつくり

アサガオの花は、大きな一枚の花弁がぐるりと巻かれてトンネルのような形になっているよ。まるでおおきなアイスクリームコーンのような形だね。

一枚に見える花弁だけれど、実はそれぞれ本当は5枚の花弁で、5枚の花弁が一枚につながっているんだ。

このように、花弁が一枚につながっているものを「合弁花類」というよ。

おしべは5本で、めしべは1本。

タンポポの花のつくり

タンポポの花はちょっと特殊で、一つの花に見える黄色い部分は、実はたくさんの小さな花があつまってできているんだ。

それぞれの小花に、おしべとめしべがちゃんとあるよ。

ひとつの花に見えるタンポポは、じつは200個ぐらいの小さな花のあつまりな

この、花の種類による花弁のちがいやおしべの数などはテストでも出ることが多いよ。

花の種類ごとのちがいを、こまかく覚えておこう。



覚えるポイントとしては、まずは「ふつうの花のつくり」を覚えてしまって、特別なつくりをしている花の種類をそれぞれ覚えるといいよ。

ふつうの花のつくり

めしべのかず

ふつうは、花1つにつき、めしべの数は「1本」だよ。

特別なつくりの花は、「雄花」と「雌花」の2種類の花がある「単性花」。
たとえば、ウリ科（ヘチマ・かぼちゃ・きゅうり・ゴーヤなど）と、トウモロコシが単性花だよ。

単性花のばあい、雄花にはおしべだけがあいよ。

花弁（花びら）のかず

ふつうは、花弁（花びら）の数は5枚だよ。

特別なつくりの花は、4枚の花びらが十字にならんでいる「アブラナ科」の花（十字花と呼ばれるよ）。

アブラナ科には、アブラナ・キャベツ・大根・ナズナなどがあるよ。

もうひとつ特別なつくりの花は、ユリ。ユリは、花びらが3枚だよ。

しかも、がくが花びらと似ていて、花びらが6枚あるように見える、おもしろい花なんだ。

そして、さらに「風で花粉を運ぶ花（風媒花というよ）」も特別で、なんと花びらは0枚なんだ。

なぜ花びらがないのかというと、風で花粉を運ぶから、虫などをよびよせる必要がないからだよ。

種子植物の風媒花は、イネ科（イネ・ムギ・トウモロコシ・ススキなど）だよ。



がくの数

ふつうは、花びらとがくの数と同じだよ。

特別なのは、キク科（キク・タンポポ・ひまわりなど）で、キク科の花は、ひとつの花のように見えるけど小さな花がたくさん集まってできているんだよね。

これらの花のがくは、たくさんあるんだ（多数）。タンポポのがくは、なんとあの「綿毛」の部分だよ。

おしべの数

ふつうは、おしべの数は5本だよ。

特別に、バラ科のおしべはたくさん（多数）。

アブラナ科のおしべは6本、

マメ科（エンドウなど）のおしべは10本だよ。



種子植物の花のつくり一覧

主な種子植物の一覧と、それぞれの花のつくりを表にまとめたよ。

花の種類	がく	花弁のようす	おしべのようす	胚珠のようす
アブラナ	4枚	離弁花類 4枚	6本	小さな粒が たくさん ある
アサガオ	5枚	合弁花類・5枚	5本	1つの子房 内にたくさ ん
タンポポ	多数 (綿毛の部分)	多数・総苞花（多数の小花が 集まっている） ひとつの花：合弁花類・5枚	各小花に1本ずつ	各小花に 1つずつ
エンドウ	5枚	離弁花類・5枚	10本	1つの子房 に数個
ツツジ	5枚	合弁花類・5枚	10本	1つの子房 に多数
ヘチマ	5枚	合弁花類・5枚	5本	1つの子房 に多数
チューリ ップ	3枚 (花のように見え る)	離弁花類・3枚	6本	1つの子房 に多数

まとめ

- ・花の種類によって、花びらやがく・おしべの数などは違う。
- ・アブラナの花びら・がくは4枚。
- ・タンポポやヒマワリは、ちいさな花があつまって一つの花のようになっている。

